

巻 頭 言



来るべき時代への躍進

社 長 石 井 平 八 郎

当社が富士通株式会社より分離独立して14年の歳月が流れました。この間におけるエレクトロニクス技術の進歩は、まさに眼をみはるものであり、世紀の大変化、産業革命の名にふさわしいものといえます。多くの技術者の血と汗の結晶である技術創造活動が、この様に短期間の大発展を支えた一大動力である事は論をまちません。

当社も、時代の先端を走る自動車産業、エレクトロニクス産業の橋渡しの分野でのオーディオ技術、モーターエレクトロニクス技術、無線技術、等々に注力し、時代の尖兵としての役割りを果していきたいと思います。

今日、世界の経済界は未曾有の変動期にあり、その規模も従来にない大きさ、広さをもつもので従来なら戦争さえ起こりかねないといわれる程です。

過去二度にわたる石油ショックを乗り越えてきた我国の今日の成果は、多くの人々の省エネルギーにかけた智慧と努力の成果といえますし、私共に身近な問題として思い出されるのは、自動車の排ガス問題です。当時、法案として決まった有名なマスキー法では、なんと、排ガス有害成分を1/10に減らすというものでありました。とても不可能と思われる事柄に多くの技術者が挑戦し、遂に問題をクリアして行った事に、感嘆と敬意を払うと同時に、為せば成るの感を深くするものであります。

この様に人智の限らない可能性を、我々の前に具現させる技術開発こそ、企業成長への鍵をにぎる重要なポイントと考えられます。このためにも、当社は以前に増して技術開発に注力し、新技術へのチャレンジを継続しなければならぬと思います。

当社も以前から技術創造運動が行われています。これは我々の現在扱っている技術が、一人や二人の力では、たとえ天才的な人でも、全体を完成させる事が不可能である程、複雑多岐にわたっているために、当社の技術に携る人々がすべて、創造的に、自由に、また組織的に仕事を進めるために設けられた全社の運動であります。そして、当社としての技術文化をつくり上げて

ゆく礎石となるべき期待が込められています。企業の文化は永い歴史の所産であり、一朝一夕に出来るものではありません。民族や国家ともなれば、百年千年を越える事柄であり、如何ともし難い面がありますが、企業はそれと異なったマネジメントという一面が強く反映されて、一つの文化がつくり出されて行くものと思います。

今、ベンチャービジネスが花盛りであり、それぞれ創業者の強い個性の下で面白い仕事がされています。そして、大成功、大躍進の企業も少なくありません。大会社でも、インデペンデュユニットなる小組織をつくり、成功を取めた例をいくつか見ることが出来ます。要は発想の転換のための色々な手段が考えられるはずという事になります。まさに企業文化は意識してつくられるべきであり、また、つくり得る可能性の高いものとすれば、企業人たる者、最も恵まれた立場にあると考えてよいのではないのでしょうか。

企業は、創造へとチャレンジすることこそが生命であり、またそのリスクが、成長の大小と最も深い関係にあると考えてよいと思います。

今、アメリカは巨大な貿易および財政の赤字に悩まされ、かつまた、製造業の空洞化といわれるほどになり、生産大国の座を日本に譲った様に見えます。しかし技術収支をみれば著しく黒字であり、近年、一次産品、二次産品の価格が下がり、知的生産物の価値を高めている過程をはっきりと見る事が出来ます。

富士通テン技報は、当社技術者の創造活動の成果の広報であります。当社の知的生産物であります。これを広く社内外の方々に御紹介し、御批判を仰ぐと同時に、社内技術の蓄積、継承に役立たせなくてはならないと思います。我々が技術の手本を外に求めればよかった時代は過ぎ去ってしまいました。自らの力で開拓を進めて行くしかないのであります。

当社の技術が世界に認められる程に高められてゆく日を期待しているのは私一人ではありません。

当社は先年、古い建屋を取りこわして新棟を建設しました。本社工場に於いて、約4割の床面積増と共に全床面積の半分近くを新しくしました。『新しい容器には新しい酒を』という格言があります。ここに改めて若々しい知力、情熱を注ぎこんで、来るべき時代への躍進を、心から期待しているものであります。